

## 事業実施報告書

### 1. 事業の実施主体名

大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会
------------------------

### 2. 実施した事業の概要

地域の学びを通じた被災地の地域コミュニティ支援のため、以下のような活動を実施した。

#### ①運営協議会等の実施

構成員・人数	開催年月日	内容	開催場所	備考
被災地委員 9名 プロジェクトメンバー 4名 参加者 0名 協力者 0名 合計 13名	2015年 4月29日(水) 18:30～20:30 (2.0h)	第1回 運営協議会 委員会 ・運営協議会のメンバーについて ・27年度事業計画について ・5月活動計画について	【TV会議】 ・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) ・霞が関 ナレッジスクエア (KK2)	
被災地委員 8名 プロジェクトメンバー 4名 参加者 0名 協力者 1名 合計 13名	9月17日(土) 18:30～20:00 (1.5h)	第2回 運営協議会 委員会 ・5月～8月の事業報告 ・9月～12月の事業予定の説明 ・その他 個別の開催事業について	【TV会議】 ・末崎地区公民館 (ふるさとセンター) ・霞が関 ナレッジスクエア (KK2)	
被災地委員 6名 プロジェクトメンバー 12名 参加者 2名 協力者 0名 合計 20名	2016年 2月13日(土) 16:00～17:30 (1.5h)	第3回 運営協議会 委員会 ・2月現在の27年度事業の実施状況と3月活動予定ならびに収支見込の報告 ・平成28年度のデジタル公民館まっさき活動について ・復興庁「心の復興」事業について ・デジタル公民館活動への意見、要望等 活動継続の要望が地元から多く出された。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
被災地委員 7名 プロジェクトメンバー 11名 参加者 18名 協力者 7名 合計 43名	3月26日(土) 14:00～15:30 (1.5h)	第4回 運営協議会 委員会 (活動報告会) ・27年度事業報告書(会計報告)の配布と説明 ・28年度事業計画 ・事業報告への現地委員からコメント、メッセージ	【TV会議】 ・末崎地区公民館 21名 (ふるさとセンター)  被災地委員 7名 プロジェクトメンバー 1名 参加者 10名 協力者 3名	【TV会議】 ・霞が関ナレッジスクエア (KK2) 22名  プロジェクトメンバー-10名 参加者 8名 協力者 4名
被災地委員 30名、プロジェクトメンバー 31名、参加者 20名、協力者 8名 合計 89名				

②研修会、講習会等の実施

構成員・人数	開催年月日	内容	開催場所	備考
講師 0名 プロジェクトメンバー 13名 参加者 0名 協力者 0名 合計 13名	2015年5月27日 (水) 19:00～21:00 (2.0h)	【勉】 デジタル公民館まっさき 第1回団体定期活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア (KK2)	
講師 1名 プロジェクトメンバー 13名 参加者 2名 協力者 0名 合計 16名	5月30日(土) 11:45～12:45 (1.0h)	【公】 視察・研修「ハネウエル居場所ハウス」  館長の鈴木軍平さんより、居場所ハウスの最近の活動、利用状況と、新しく始めた「わらしこ見守り隊」(子どもの一時預かり)のサービスなどを説明を受けた。	ハネウエル居場所ハウス	
講師 2名 プロジェクトメンバー 12名 参加者 10名 協力者 0名 合計 24名	5月30日(土) 18:30～21:00 (2.5h)	【公】 「まちおもしろトーク」&情報交流会 (第1回) 語り部は志田仁さん(碓石地区在住、大船渡市市民活動支援センター)と滝田松男さん(平林仮設住宅在住、市議会議員)。七福神など地域文化と外部交流人材等を結びつけることによる末崎のまちづくりについて、細浦地区の復興計画の現状について問題提起いただいた。高齢化がますます進む末崎のこれからについて、被災地参加者にプロジェクトメンバーも加わり、まっさきのよさ、魅力あるまちづくりについて意見交換した。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
講師 0名 プロジェクトメンバー 12名 参加者 0名 協力者 4名 合計 16名	5月31日(日) 7:00～8:45 (1.75h)	【公】 視察・研修 早朝視察  ・細浦朝市 ・細浦漁港昆布作業場 ・松嶋神社	細浦地区など	
講師 0名 プロジェクトメンバー 12名 参加者 0名 協力者 3名 合計 15名	5月31日(日) 14:00～16:00 (2.0h)	【公】 視察・研修  ・碓石浜 ・碓石地区高台造成地 ・長洞元気村  ほぼ完成した長洞元気村のなでしこ工房・番屋を視察し、ネットワーク環境、ライブ配信アクセス環境を確認した。	長洞元気村	
講師 0名 プロジェクトメンバー 14名 参加者 0名 協力者 0名 合計 14名	7月8日(水) 19:00～21:00 (2.0h)	【勉】 デジタル公民館まっさき 第2回団体定期活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア (KK2)	
講師 2名 プロジェクトメンバー 14名 参加者 5名 協力者 0名 合計 21名	7月11日(土) 11:45～12:45 (1.0h)	【公】 視察・研修「ハネウエル居場所ハウス」  語り部は、元小学校の教員で居場所ハウスの運営に携わる田畑美和さんと、末崎地区公民館長の新沼眞作さん。田畑さんは、「わらしこ見守り隊」のサービスについて。新沼さんは、東日本大震災による被災の概況と復興の現状について語った。	ハネウエル居場所ハウス	
講師 2名 プロジェクトメンバー 14名 参加者 12名 協力者 0名 合計 28名	7月11日(土) 18:30～21:00 (2.5h)	【公】 「まちおもしろトーク」&情報交流会 (第2回) 語り部は志田仁さん(碓石地区在住、大船渡市市民活動支援センター)と村上誠二さん(長洞元気村事務局長)。おふたりに地域ブランドについて語っていただき、質疑や意見交換を行った。復興だけでなく、人口減少社会において地域に雇用を創出する観点からの「地域ブランド」が課題。皆で答えを探していきたいと語っていた。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	

講師 1名 プロジェクトメンバー 参加者 14名 協力者 3名 合計 18名	7月12日(日) 7:45~8:45 (1.0h)	【公】視察・研修 早朝視察 ・基石半島 ・気仙大工の家 ・ラベンダー花壇 明治19年完成の気仙大工の名建築、吉田力男さん宅を訪問し、お話をうかがった。漁業に便利な浜近くに家建てず、津波が来た時の被害を逃れるため高台に建築し、明治、昭和の三陸津波、チリ地震による津波の被害を受けなかったと語っていた。	吉田力男さん宅	
講師 3名 プロジェクトメンバー 参加者 14名 協力者 3名 合計 20名	7月12日(日) 13:30~15:00 (1.5h)	【公】視察・研修 「長洞元気村なでしこ工房」 語り部は、なでしこ工房の戸羽英子さん、金野悦子さん。長洞元気村の周辺の被災状況を現地を歩きながら語った。	長洞元気村	
講師 2名 プロジェクトメンバー 参加者 1名 協力者 2名 合計 5名	7月22日 13:00~15:00 (2.0h)	【勉】視察・研修 ハス見本園見学 東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構(通称東大農場)のハス見本園を訪問。大賀ハス、中尊寺ハスをはじめ、200種類のハスの栽培と品種管理、品種改良、新規開発に取り組んでいる技術職員から、水、肥料、雑草、レンコン対策などハス栽培と池の手入れ、管理などについて説明を受けた。	東大農場	
講師 0名 プロジェクトメンバー 参加者 13名 協力者 0名 合計 13名	9月24日(木) 19:00~21:00 (2.0h)	【勉】デジタル公民館まっさき 第3回団体定期活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア(KK2)	
講師 1名 プロジェクトメンバー 参加者 13名 協力者 30名 合計 45名	9月26日(土) 18:30~20:30 (2.0h)	【公】「まちおもしろトーク」&情報交流会(第3回) 語り部は大船渡温泉オーナーの志田豊繁さん。地域貢献のための事業展開をテーマに、震災後にリスクを背負って大船渡温泉を立ち上げた理由や三陸復興のシンボルとしてのこれからの事業展開について語った。その後、志田仁(大船渡市民活動支援センター)さんの司会で、質疑応答がなされた。	末崎地区公民館(ふるさとセンター) 2F会議室	
講師 1名 プロジェクトメンバー 参加者 13名 協力者 2名 合計 16名	9月27日(日) 14:30~15:30 (1.0h)	【公】視察・研修 「小河原地区被災地視察と跡地利用計画」 新沼眞作末崎地区公民館長の案内で、小河原地区被災地を訪問した。新沼館長から現地で、被災時の様子や新設道路の建設、跡地利用計画などを説明を受けた。	小河原地区	
講師 0名 プロジェクトメンバー 参加者 13名 協力者 0名 合計 13名	11月4日(水) 19:00~21:00 (2.0h)	【勉】デジタル公民館まっさき 第4回団体定期活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア(KK2)	
講師 2名 プロジェクトメンバー 参加者 11名 協力者 2名 合計 15名	11月8日(日) 14:30~16:00 (1.5h)	【公】視察・研修「ハネウエル居場所ハウス」 「まっさきに学ぶ 復活した郷土の祭とコミュニティ」 語り部は熊野神社式年大祭実行委員長の近藤均さんと平地区在住で居場所ハウス館長の鈴木軍平さん。祭を8年ぶりに復活させる際のご苦労や、コミュニティと祭、若者教育と祭の関係などについて語った。	ハネウエル居場所ハウス	

講師 プロジェクトメンバー 0名 12名 参加者 0名 協力者 0名 合計 12名	2016年2月9日(火) 19:00～21:00 (2.0h)	【勉】 デジタル公民館まっさき 第5回団体定期活動事前ミーティング	霞が関ナレッジスクエア (KK2)	
講師 プロジェクトメンバー 2名 12名 参加者 45名 協力者 0名 合計 59名	2016年2月13日 (土) 13:30～15:30 (2.0h)	【公】 「まちおもいトーク」 & 情報交流会 (第4回) 講師は気仙医師会会長で、一般社団法人未来かなえ機構代表理事、滝田医院院長の滝田有先生。気仙地域の医療関係者と介護・福祉関係者が手を携えた医療連携と地域包括ケアの先進的なまちづくりについて学びました。その後、未来かなえ機構の安部白道事務局長により、「未来かなえネット」のプロモーションを行いました。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
講師 プロジェクトメンバー 1名 12名 参加者 2名 協力者 0名 合計 15名	2016年2月14日 (日) 14:30～16:00 (1.5h)	【公】 視察・研修「碁石地区」 碁石地区復興まちづくり協議会会長で、デジタル公民館まっさき企画運営委員の大和田東江さんの案内で、高台集団移転地、西館公民館再建計画地、泊里漁港、中里熊野神社を訪れ、現地にて説明を受けた。	碁石地区	
講師 20名、プロジェクトメンバー 延べ232名、参加者 118名、協力者 8名 合計 378名				
【公】 公民館での、まちづくり・人づくり、地域創生を学ぶプログラム 【勉】 デジタル公民館まっさき活動を行うにあたり、講師・専門家・参加者間での打ち合わせ、意見交換、勉強会				



～共に考え、共に学ぶプログラム～  
**気仙に学ぶ！まっさきに学ぶ！**



**まちおもいトーク&情報交流会**

- ・まっさきのまちづくり
- ・地域ブランド
- ・地域貢献のための事業展開
- ・復活した郷土の祭とコミュニティ
- ・医療連携と地域包括ケアの先進的なまちづくり

復興に活躍している気仙やまっさきの地域の人を講師に、住民とよそ者が一緒になり、学び、考える。

- ・地域の交流の場
- ・コミュニティの再生
- ・まちづくり、人づくり
- ・地域の魅力再発見

まちづくり



地域ブランド



地域貢献



祭とコミュニティ



医療連携と地域包括ケア



～共に考え、共に学ぶプログラム～  
**気仙に学ぶ！まっさきに学ぶ！**



**視察研修**

- ・内田地区大津波避難訓練
- ・ハネウェル居場所ハウス
- ・長洞元気村なでしこ工房
- ・気仙大工の家
- ・ハス見本園
- ・小河原地区被災地
- ・碓石地区 高台集団移転地等

実際に被災地を見、復興状況を見、復興に活躍している地域の人と接し、復興や将来の街づくりについて共に考える。

- ・まちづくり、人づくり
- ・地域の魅力再発見

居場所ハウス



気仙大工の家




高台集団移転地


③地域における学習活動等の実施

参加者 9名 8名 延べ 17名 プロジェクトメンバー 13名 12名 延べ 25名 協力者 0名 合計 42名	2015年 5月30日(土) 13:30~16:00 5月31日(日) 9:00~12:00 (2コマ 5.5h)	【PC】PCネットよろず相談 ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・SNS(Facebook)の活用/Windowsの設定/Excelによる表計算/写真の加工/音声ファイルの活用/Word、PowerPointによるチラシ作成/デジタルカメラの使い方 など	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 7名 プロジェクトメンバー 2名 協力者 0名 合計 9名	5月30日(土) 13:30~15:00 (1.5h)	【シ】 まっさき竹とんぼグループミーティング ・竹とんぼの新作、新技術の情報交換 ・使用済牛乳パックを使ったエコトンボの試作 ・27年度活動についての話し合い(夏休み親子もの作り教室、講師育成講座、ミニ門松づくりなど)	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F研修室	
参加者 8名 10名 延べ 18名 プロジェクトメンバー 14名 14名 延べ 28名 協力者 0名 合計 46名	7月11日(土) 13:30~16:00 7月12日(日) 9:00~12:00 (2コマ 5.5h)	【PC】PCネットよろず相談 ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・SNS(Facebook)の活用/Windowsの設定/Excelによる表計算/写真の加工/音声ファイルの活用/Word、PowerPointによるチラシ作成/デジタルカメラの使い方 など ・参加者カルテ(過去の相談履歴や参加者のスキル、上達度を記録)を作成し、活用。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 4名 プロジェクトメンバー 1名 協力者 0名 合計 5名	7月11日(土) 13:30~16:00 (2.5h)	【シ】 まっさき竹とんぼグループミーティング ・夏休み親子ものづくり教室(居場所ハウス)の準備作業	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 1F調理室	
参加者 8名 9名 延べ 17名 プロジェクトメンバー 13名 13名 延べ 26名 協力者 0名 合計 43名	9月26日(土) 13:30~16:00 9月27日(日) 9:00~12:00 (2コマ 5.5h)	【PC】PCネットよろず相談 ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・Excelを使った名簿づくり、表計算、Excelのお困りごと解決。 ・Excel学習コンテンツ「初心者向け”しごと”がはかどるExcel(エクセル)活用術」(動画)の紹介 ・SNS(Facebook)の活用/Windowsの設定/Excelによる表計算/写真の加工/音声ファイルの活用/Word、PowerPointによるチラシ作成/デジタルカメラの使い方 など ・参加者カルテ(過去の相談履歴や参加者のスキル、上達度を記録)を活用。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 5名 プロジェクトメンバー 1名 協力者 0名 合計 6名	9月26日(土) 13:30~16:00 (2.5h)	【シ】 まっさき竹とんぼグループミーティング ・ブリキやアルミ缶を使った「とまりとんぼ」の作成 ・文化祭ブース出展について	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 1F調理室	
参加者 25名 プロジェクトメンバー 13名 協力者 0名 合計 38名	9月27日(日) 6:30~8:30 (2.0h)	【訓】内田地域大津波避難訓練 ・プロジェクトメンバーが内田地域自主防災本部の大津波避難訓練に参加。住民の安否確認に立会い、避難本部のテント設営と弱者救出に必要な竹と毛布による応急担架づくりを体験。訓練終了後は、隣接する長源寺(当時の一時避難場所)にある3.11津波到達点の碑、明治29年の津波被害者の碑などを視察。谷山誠志住職にお話を聞いた。	内田地区公民館	
参加者 0名 プロジェクトメンバー 1名 協力者 1名 合計 2名	10月30日(金) 18:00~20:00 (2.0h)	【祭】気仙法印神楽の取材 ・熊野神社(神坂)の式年大祭の前夜、宵宮祭に奉納された気仙法印神楽を取材。末崎町での気仙法印神楽の奉納は70年ぶり。	熊野神社(神坂)	

参加者 プロジェクトメンバー 0名 協力者 1名 合計 2名	10月30日(金) 17:00~19:00 (2.0h)	【祭】はしご虎舞「揃い」を取材  ・平地域公民館で行われていた熊野神社式年大祭前夜行事、平組はしご虎舞「揃い」を取材。菅原均自治会長兼館長より、8年ぶりのはしご虎舞復活とコミュニティの近況について話をうかがった。	平地域公民館	
参加者 プロジェクトメンバー 0名 協力者 1名 合計 2名	10月31日(土) 8:00~14:00 (6.0h)	【祭】式年大祭を視察、映像収録  ・平地域公民館、内田地域区公民館、峰岸地区、船河原地域公民館、神坂地区、小細浦地域公民館などを回り、熊野神社への出発式を視察。つづいて熊野神社境内にて各地域の権現舞、虎舞などの奉納を視察、熊野神社から式典会場の広場までの練り歩きを視察、文化祭の上映に向けて映像を収録。	熊野神社(神坂) 小細浦グラウンド	
参加者 7名 8名 延べ 15名 プロジェクトメンバー 8名 7名 延べ 15名 協力者 0名 合計 30名	11月7日(土) 13:30~16:00 11月8日(日) 9:00~12:00 (2コマ 5.5h)	【PC】PCネットよろず相談  ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・Excelを使った名簿づくり、家計簿づくり、Excelのお困りごと解決。 ・Excel学習コンテンツ「初心者向け”しごと”がはかどるExcel(エクセル)活用術」(動画)の紹介 ・Windows10へのバージョンアップ ・SNS(Facebook)の活用/Windowsの設定/ Excelによる表計算/写真の加工/音声ファイルの活用/Word、PowerPointによるチラシ作成/デジタルカメラの使い方など ・参加者カルテ(過去の相談履歴や参加者のスキル、上達度を記録)を活用。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 50名 100名 延べ 150名 プロジェクトメンバー 4名 4名 延べ 8名 協力者 0名 合計 158名	11月7日(土) 14:00~16:00 (2.0h) 11月8日(日) 9:00~12:00 (3.0h) (2コマ 5.0h)	【町】末崎町民文化祭に参加、PRと交流  ・10月31日に行われた神坂熊野神社式年大祭(神坂)で撮影したDVD上映、写真の展示 ・まちおもい「フォト」未来につなげるメッセージを掲げ、写真撮影	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 体育館	
参加者 プロジェクトメンバー 16名 協力者 13名 講師 0名 1名 合計 30名	11月7日(土) 18:30~20:30 (2.0h)	【映】ふれあい映画館  ・占領下で全国で上映されたCIE(民間情報教育局)映画「公民館」「スクエア・ダンスを踊ろう」「格子なき図書館」上映 ・日本体育大学の田上教授を講師に意見交換	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 プロジェクトメンバー 4名 4名 協力者 2名 合計 10名	12月12日(土) 16:00~17:30	【シ】みんなのミニ門松づくり教室会場準備、進行、運営会議  まっさき竹とんぼグループ4名とふれあいキッズデー企画運営委員、活動メンバーにより翌日のミニ門松づくりの材料、道具、作業スペース配置などを行い、役割分担、進行・運営について話し合った。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 プロジェクトメンバー 50名 4名 協力者 5名 講師 7名 合計 66名	12月13日(日) 9:00~12:00 (3.0h)	【シ】みんなのミニ門松づくり教室  ・昨年に引き続き、まっさき竹とんぼグループによる「みんなのミニ門松づくり」教室を実施。受付、会場運営等はふれあいキッズデー企画運営委員と連携して行った。用意した50個分の材料はすべて使われた。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	

参加者 12名 9名 延べ 21名 プロジェクトメンバー 12名 12名 延べ 24名 協力者 0名 合計 45名	2016年 2月13日(土) 18:30~20:00 2月14日(日) 9:00~12:00 (2コマ 4.5h)	<b>【PC】PCネットよろず相談</b> ・パソコンやインターネットの使い方について個別対応支援 ・Excel学習コンテンツ「初心者向け”しごと”がはかどるExcel(エクセル)活用術」(動画)を視聴。 ・Excelを使った名簿づくり、表計算、Excelのお困りごと解決。 ・SNS(Facebook)の活用/Windowsの設定/Excelによる表計算/写真の加工/音声ファイルの活用/Word、PowerPointによるチラシ作成/デジタルカメラの使い方など ・参加者カルテ(過去の相談履歴や参加者のスキル、上達度を記録)を活用。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	
参加者 7名 プロジェクトメンバー 1名 協力者 0名 合計 8名	2月14日(日) 10:00~12:00 (2.0h)	<b>【シ】</b> まっさき竹とんぼグループミーティング ・2015年度年間活動活動結果報告 ・2016年度活動計画についての話し合い	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 1F調理室	
参加者 35名 プロジェクトメンバー 2名 協力者 2名 合計 39名	3月26日(土) 15:45~18:45 (3.0h)	<b>【映】ふれあい映画館</b> 三陸沿岸の小漁村の被災前の暮らしを描いた「波伝谷に生きる人びと」を鑑賞。終了後のトークタイムでは2014年度の「ごいし民俗誌」勉強会で講師を務めた民俗文化、無形文化遺産研究者も交えて感想を述べ合い、暮らしの復興とコミュニティの再生について話し合った。	末崎地区公民館 (ふるさとセンター) 2F会議室	*霞が関ナレッジスクエア上映会(参考)(KK2) プロジェクトメンバー10名 参加者 15名 協力者 0名 合計 25名
参加者391名、プロジェクトメンバー 182名、協力者 12名、講師 8名 合計 593名				
<b>【PC】</b> PCネットよろず相談 <b>【シ】</b> シニアの出番づくり事業 <b>【町】</b> 町民文化祭への参加と「まちおもしろフォト」の作成 <b>【訓】</b> 避難訓練への参加 <b>【映】</b> まっさきふれあい映画館 <b>【祭】</b> 熊野神社式年大祭の見学など				






## PC・ネットよろず相談


パソコンやインターネットの使い方、ネットを通じた情報発信など、お困りごとへの相談対応

スタッフ10~14名で年5回  
10コマ開催

コミュニティ再生・地域情報の発信


- ・IT支援の場を通じた交流
- ・ICT弱者支援
- ・ITスキルアップ
- ・地域情報発信者づくり
- ・地域のICTお困り事相談支援者づくり








ICT学習動画の作成と活用

初心者向け  
”しごと”がはかどるExcel活用術







## 竹とんぼグループ



### 男性シニアに地域の出演と役割を創出

- ・竹とんぼづくりの講師育成
- ・シニアの交流
  - ☞ 新作の情報交換
  - ☞ 試作
- ・多世代間交流
  - ☞ 夏休み親子ものづくり教室
  - ☞ ミニ門松づくり
  - ☞ 町民文化祭に出展し、シニアのパワーをアピール

コミュニティ再生



## まっさき ふれあい 映画館



### 映画上映会を開催

- ・戦後復興期の作品
  - ☞ 公民館
  - ☞ スクエア・ダンスを踊ろう
  - ☞ 格子なき図書館
- ・東日本大震災直前の暮らしを描いた作品
  - ☞ 波伝谷に生きる人びと

近隣に映画館のない東崎地区 地域、家族で楽しめる上映会  
上映後に、映画の時代背景について、講師が説明  
講師、参加者の意見交換により、共に考える





## ネット環境のある場づくりとその活用 まっさき

### インターネット利用環境の整備

- ・光通信の敷設
  - ☞ 末崎地区公民館
  - ☞ 小中井仮設談話室
- ・館内無線LANの設置
  - ☞ 末崎地区公民館（1F事務室・和室・廊下）
  - ☞ 小中井仮設（談話室・自治会長宅）
- ・ノートPCの設置
  - ☞ 末崎地区公民館  
（1F廊下：常設2台 2F会議室：非常設5台）
  - ☞ 小中井仮設  
（談話室：常設2台、自治会長宅：常設1台）

### 住民のネット利用と 公民館のデジタル活動

- ・住民のインターネット利用
  - ☞ 公民館の開館時間、仮設談話室の開館時間に住民が自由に利用
  - ☞ 放課後や休日に、子ども達が調べ物や娯楽で利用
  - ☞ 職員や支援員は日常業務にPCやスマホで活用
- ・ハイビジョンTV会議システムの運用
  - ☞ 双方向会議・ミーティング・イベント中継
- ・インターネットライブ配信とサテライト中継
  - ☞ 教育・文化プログラム・地方創生プログラムの共有
- ・まっさきに学ぶ！ 気仙に学ぶ！
  - ☞ 地域の課題をオンデマンドで学ぶ

③ 2017.10.10現在



## 公民館からの情報発信



デジタル公民館まっさき  
<http://www.massaki.jp/>

- ・イベント告知
- ・地域情報発信
- ・毎月20日発行「館報まっさき」を掲載
- ・館内施設予約状況を案内
- ・活動報告
- ・過去の講演動画
- ・「末崎わかめ」の情報発信
- ・たけとんぼグループの活動
- ・まちおもしろフォト
- ・Excel学習動画
- ・ブログ、フェイスブック、  
ホームページに案内
- ☞ 末崎町の個人・商店
- ☞ 観光施設、寺社
- ☞ 復興・再生活動 など

### Facebook メール

- ・地域住民の交流
- ・活動スタッフと参加者との交流

③ 2017.10.10現在

④土曜日等を中心とする学習活動等の実施

参加者 0名 プロジェクトメンバー 協力者 2名 合計 2名	7月21日(火) 11:00~12:00 (1.0h)	【居】ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 「夏休みものづくり教室」 事前打ち合わせ	居場所ハウス (末崎町字平林54-1)	
参加者 0名 プロジェクトメンバー 協力者 3名 合計 3名	7月28日(火) 11:00~12:00 (1.0h)	【居】ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 「夏休みものづくり教室」 事前打ち合わせ	居場所ハウス (末崎町字平林54-1)	
参加者 0名 プロジェクトメンバー 協力者 2名 合計 2名	8月4日(火) 11:00~12:00 (1.0h)	【居】ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 「夏休みものづくり教室」 事前打ち合わせ	居場所ハウス (末崎町字平林54-1)	
参加者 30名 プロジェクトメンバー 協力者 13名 講師 2名 合計 46名	8月9日(日) 13:00~15:30 (2.5h)	【居】ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 「夏休みものづくり教室」  ・まっさき竹とんぼグループと居場所ハウスおたすけ隊、ふれあいキッズデー企画運営委員らの協力により、地域の親子参加、夏休みで帰省中の親子等が参加してものづくり教室を実施。 虫づくり、エコトンボ作りなどの工作と、うさぎの手芸等を楽しんだ。	居場所ハウス (末崎町字平林54-1)	
参加者 0名 プロジェクトメンバー 協力者 3名 合計 3名	1月6日(火) 11:00~12:00 (1.0h)	【居】ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 「郷土 末崎の歴史を学ぼう！」 事前打ち合わせ	居場所ハウス (末崎町字平林54-1)	
参加者 68名 プロジェクトメンバー 協力者 8名 講師 1名 合計 79名	1月11日(日) 10:00~11:30 (1.5h)	【居】ふれあいキッズデー in 居場所ハウス 「郷土 末崎の歴史を学ぼう！」  ・地域の冬休み児童会事業と連携して、まっさきの歴史を語る会事務局長を講師に、ふるさとの歴史を学んだ。	居場所ハウス (末崎町字平林54-1)	
参加者 98名、プロジェクトメンバー 3名、協力者 31名、講師 3名 合計 135名				
【居】「ふれあいキッズデー in 居場所ハウス」：地域のコミュニティカフェである「ハネウエル居場所ハウス」にて、児童や親子、多世代を対象とした交流・学習の場を開設。地域の交流を深める。 【シ】シニアの出番づくり事業				



# ふれあいキッズデー in 居場所ハウス



男女や多世代の  
興味、得意技を活かした  
**学習活動**

- ・夏休みものづくり教室
  - ☞ 工作
    - 虫づくり
    - エコトンボづくり など
  - ☞ 手芸によるうさぎ人形作り
- ・郷土 末崎の歴史を学ぼう  
冬休み子ども会活動で小学生も参加

地域のコミュニティカフェである「ハネウエル居場所ハウス」にて、児童や親子、多世代を対象とした交流・学習の場を開設。居場所ハウスとデジタル公民館による協業で、多世代交流の輪が横ばき、広がる。



## ⑤実施した事業と参加者

実施した事業毎の参加者数について、下表に示す。本事業に参加した総数は、プロジェクトメンバ延べ448名を含む、総数1195名であった。なお、研修会・地域活動・土曜日等への被災地委員の参加は参加者、協力者講師の数字に含まれている。

	運営協議会	研修会	地域活動	土曜日等	計
被災地委員	30	0	0	0	30
プロジェクトメンバ	31	232	182	3	448
参加者	20	118	391	98	627
協力者	8	8	12	31	59
講師	0	20	8	3	31
計	89	378	593	135	1195

## ⑥デジタル公民館活動サイトの運営とコンテンツの公開

今年度、デジタル公民館サイトに投稿したコンテンツの総数は53件。このうち、映像コンテンツは17件であった。なお、今年度、デジタル公民館サイトに投稿されたコンテンツの一覧を別紙に添付する。

コンテンツ		投稿数	備考
テキスト・写真	公民館情報	12	館報まっさき
	活動報告	5	第1回～第5回各2日間のプログラム概要と、参加者・プロジェクトメンバのアンケート結果
	地域情報	12	
	イベント案内	7	
映像・音声	まちおもいトーク	9	第1回～第4回
	まちおもいフォト	1	
	パソコン学習	5	
	その他	2	DVD（公民館にて貸出し） 「熊野神社式年大祭」(10/31) 「郷土 末崎の歴史を学ぼう」(1/11)

### 3. 事業実施による成果及び課題

事業実施による成果と課題について以下に示す。

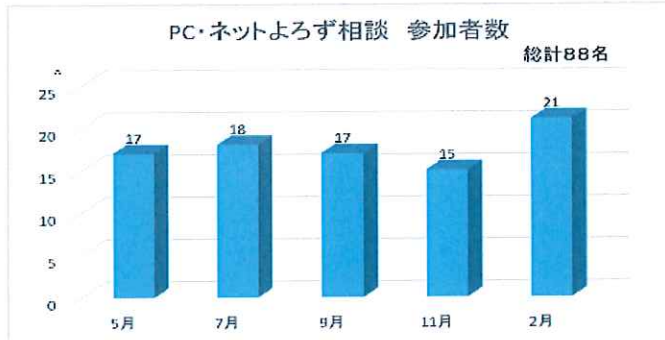
#### 実施内容と成果

##### 【実施内容】

#### (1) PC・ネットよろず相談

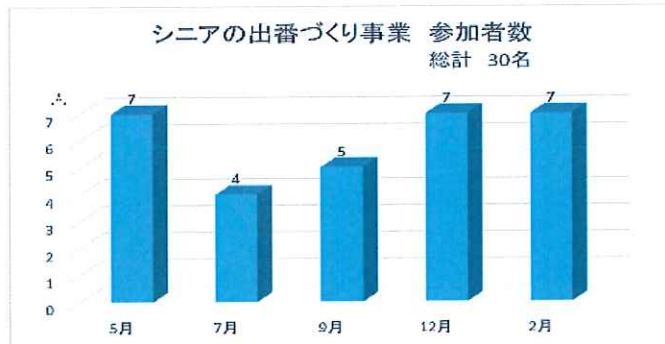
東京から訪問する専門スタッフと交流しながらICTの技能を高めたり、困りごとを解決する活動「PC・ネットよろず相談」を、おおよそ2か月に1回、定期的で開催した。

「PC・ネットよろず相談」では、参加者のICT技能レベルや各回に行った内容等を記録したカルテを作成し、運用した。また、次の回までの期間に住民が自発的に学べるような学習動画コンテンツ「初心者向け”しごと”がはかどるExcel活用術」を作成し、活用した。



#### (2) シニアの出番づくり事業

まっさき竹とんぼグループと協働し、女性と違って引込みがちな男性シニアに地域の出番と役割を創出する活動を行った。今年度は竹やクルミに加え、使用済みの牛乳パック、ジュースパック、菓子箱のブリキなどの新たな材料を用いたエコトンボ、バランストンボ、かぶと虫づくりに挑戦し、夏休みの親子ものづくり教室、町民文化祭での作品展示と実演、年末恒例のミニ門松づくり等を実施した。



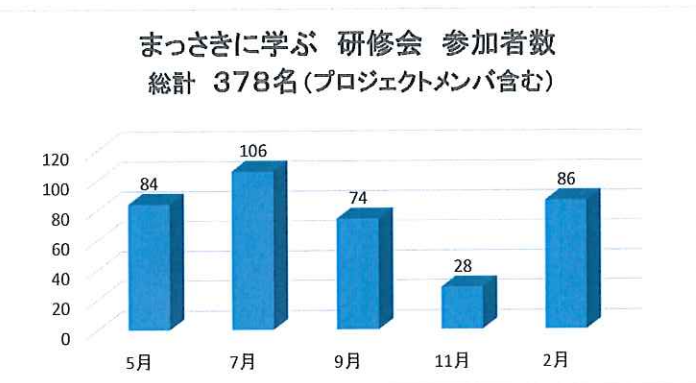
#### (3) まっさきに学ぶ！ 気仙に学ぶ！

日々の暮らしや未来に向けたまちづくりを学ぶ場を作る活動を行った。

地域の人とプロジェクトメンバが共に学び、共に考えることで起こる相乗効果をコミュニティ再生につなげていくことを意図し、まっさきに学ぶ、気仙に学ぶ研修会として、「まちおもいトーク」などを定期活動時に開催し、年4回実施した。各回ごとにテーマを設定し、地元で復興に取り組んでいる方を語り部（講師）とした。講師の話聞いた後、参加者との質疑応答、参加者間の意見交換により、テーマについて深めた。その結果、自分たちの「まち」を自分たちが思っていたほど知らないということの気づきもなった。

また、プロジェクトメンバが地域の暮らしや復興状況を知る機会として、早朝研修や視察研修会を実施し、地域の方々との交流を深めた。

各回のテーマは次の通り。



・5月

- ① 「第1回 まちおもいトーク」&情報交流会  
ー 復興と地域創生の課題について ー
- ② 視察研修会  
住民運営のコミュニティ施設・居場所ハウスの運営状況について
- ③ 早朝視察研修会  
細浦漁港・北浜わかめ組合虹の会こんぶ出荷作業、再建された松嶋神社
- ④ 視察研修会  
碓石浜、高台移転造成地、竣工した長洞元気村なでしこ工房・番屋

・7月

- ①「第2回 まちおもしろトーク」&情報交流会  
ー 地域ブランド ー
- ② 研修会(居場所ハウス)  
子どもの見守り活動、末崎町地区の被災の特徴について
- ③ 早朝視察研修会  
碓石半島を海から視察、三陸大津波に備えて建てられた気仙大工の家の視察
- ④ 視察研修会(長洞元気村)  
なでしこ工房・番屋・語り部ツアー

・9月

- ①「第3回 まちおもしろトーク」&情報交流会  
ー 企業家がおもうまちづくり ー
- ② 早朝視察研修会  
内田地区大津波避難訓練、細浦復興朝市
- ③ 視察研修会  
小河原地区 被災地利用計画

・11月

- ① 研修会  
熊野神社式年例祭を契機とした伝統芸能の復活とコミュニティ
- ② 早朝視察研修会  
大船渡温泉薪焚きボイラー施設、門之浜漁港牡蠣剥き作業

・2月

- ①「第4回 まちおもしろトーク」&情報交流会  
ー 医療連携と地域包括ケアのまちづくり ー
- ② 視察研修会  
碓石地区 高台集団移転住宅地・被災たんぼ・泊里漁港・熊野神社

(4) まっさきふれあい映画館

11月8日(土)ふるさとセンターを会場に、1950年に教育目的の非商業映画として制作され、当時日本全国で上映された占領下のCIE(Civil Information and Education section)映画「公民館」「スクエア・ダンスを踊ろう」「格子なき図書館」の3本を上映した。地域の方16名の参加があり、総勢30名で鑑賞した。鑑賞後に、日本体育大学の山田幸夫教授から映画に登場していたシーンなどの時代背景や戦後復興期の社会づくりと公民館、図書館について解説があり、質疑応答を行った。戦後の公民館の歴史、目的、位置づけなどを振りかえる中で、末崎町の公民館の事情、経緯にも話が及び、東日本大震災後の公民館の役割、課題について話しあわれた。

3月26日(土)ふるさとセンターを会場に、南三陸町戸倉地区波伝谷集落の東日本大震災被災前の暮らしを記録した「波伝谷に生きる人びと」の上映会を行った。末崎町内の公民館関係者、愛林公益会関係者、婦人部・食生活改善・漁協婦人部など女性グループ、ごいし民俗誌関係者らを中心に、約40名の参加があった。小漁村集落の暮らしという意味では、波伝谷集落も末崎町の集落も共通する点もあり、上映終了後、暮らしの復興、心の復興、コミュニティ再生の仕組みづくり、などについて意見交換した。

(5) 末崎町民文化祭に参加、PRと交流

昨年に引き続き、11月7日(土)、8日(日)に末崎町民文化祭に参加した。住民の皆さんにデジタル公民館の活動をPRし、交流することを目的とした。10月31日に8年ぶりに行われた神坂熊野神社式年大祭の権現舞、虎舞、はしご虎舞などの奉納、神輿と祭組衆の練り歩きを撮影したDVDの上映、写真の展示を行った。また、自分たちのおもしろをメッセージにしたため、笑顔と一緒に撮影する「まちおもしろフォト」も昨年同様実施した。熊野神社式年例大祭のDVD上映と写真の展示の効果により、一人当たりのブース滞在時間は昨年に比べると増加した。その影響でブースへの来訪者は、二日間で延べ約150名と昨年より減少している。また、対応スタッフの手が足りず、まちおもしろフォトの撮影協力者もブースでは半数程度であった。

(6) ふれあいキッズデー in 居場所ハウス

8月9日(土)ハネウェル居場所ハウスを会場に、まっさき竹とんぼグループ、ふれあいキッズデー企画運営委員らの協力により、夏休み親子ものづくり教室を実施。折から帰省中の末崎町出身者親子を含め、多くの方に虫づくりやエコトンボ作りを楽しんでいただいた。

1月11日(土)ハネウェル居場所ハウスを会場に、末崎の昔を語る会、ふれあいキッズデー企画運営委員らの協力により、「郷土 末崎の歴史を学ぼう」を実施、小学3年生から高齢者まで多世代が一緒に、末崎町に関わる歴史年表をテキストに郷土の歴史に親しんだ。

(7) 公民館のデジタル化

昨年度から引き続き、末崎地区公民館等に光通信によるインターネット環境、並びに無線LAN環境を常設した。また、ノートパソコン環境、WEBサーバ、メールサーバを用意して、住民がいつでもパソコン、インターネットを使えるようにした。整備した環境は次の通り。

- ・末崎地区公民館 1階事務室、和室、廊下フリースペース(常設PC2台)
- ・末崎地区公民館 2階会議室(非常設PC5台)
- ・小中井仮設談話室(常設PC 2台)
- ・小中井仮設自治会長宅(常設PC 1台)
- ・末崎地区公民館2階会議室 ハイビジョンテレビ会議運用環境

【成果】

(1) PCネットよろず相談

PC・ネットよろず相談事業は、レベルごとの取得学習やテーマを決めて一斉にスキルトレーニングを行うような講座タイプのプログラムではない。一人一人の困り事や課題にプロジェクトメンバが個別に寄り添う活動である。

活動開始から4年以上継続しているが、本年も各回の参加者数は10数名から15名と安定していた。また、いまだに一定数の初参加者がいる。毎回の参加者の満足度は高く、10回以上参加している常連組も多い。多くの参加者から来年度も継続してほしいとの要望が出ており、PC・ネットよろず相談への潜在的な需要は地域に多くあると認識することができた。

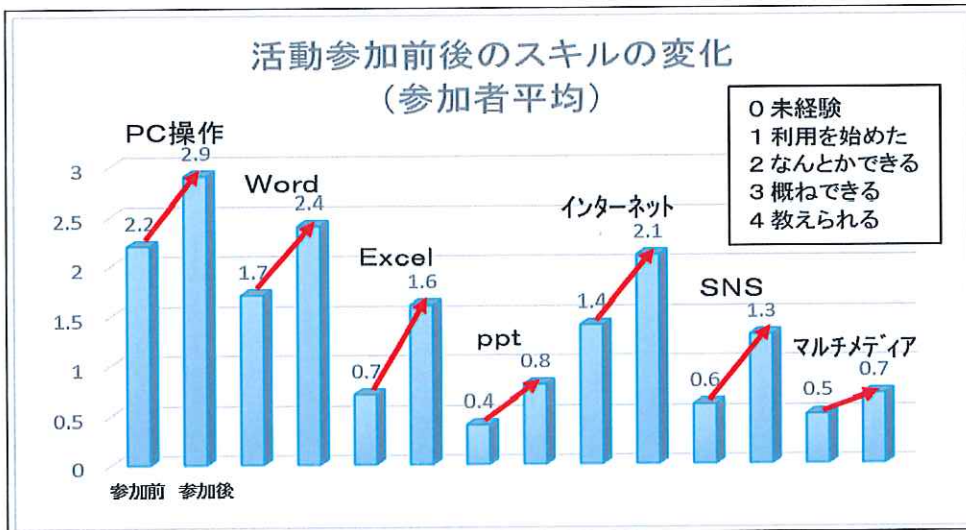
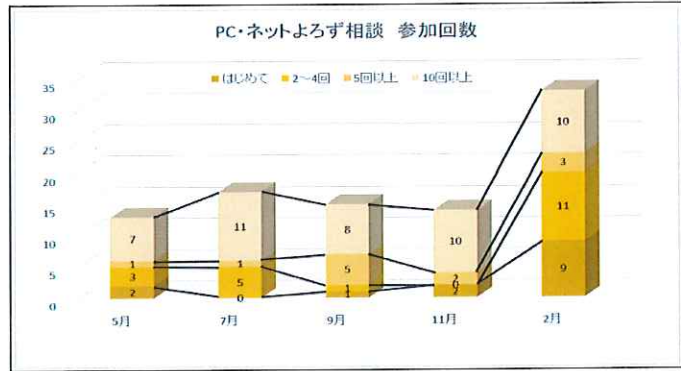
昨年度に実施した参加者の実力調査を発展させ、今年度より参加者カルテを本格的に導入し、運用した。カルテには、参加者の初めて参加したときのスキル、過去の相談履歴や上達度を記録した。相談を受けたプロジェクトメンバが、参加者にヒアリングした上で、参加者のスキルを評価してカルテに書き込んだ。

参加者カルテの運用により、継続して相談に訪れる参加者の上達度をある程度定量的にとらえることができるようになった。また、相談に応じるプロジェクトメンバは、毎回変わるので、過去にどのような相談があったかを確認することは、その時点の相談に適切に対応するために必要だった。

昨年度までは、メールを覚えたい、文書を作成したい、インターネットを使いたいなど、どちらかと言えば漠然とした目的を持った参加者が多かった。それに比べ今年度は、Webサイトの画像やテキストをワードに複写したい、Windows10にバージョンアップしたい、ファイルの文字化けを直したい、ネットショッピングの操作トラブルを解決したい、不要なアプリをアンインストールしたい等々、具体的な困りごとの解決のため、参加する方が、回を重ねるごとに多くなった。このことは、地域でのICTの具体的な活用度が徐々に上がってきていることを反映しているものと思われる。

参加者カルテでは、PCスキルをPC操作、Word、Excel、PowerPoint、インターネット、SNS、マルチメディアについて、全部で26項目あげ、未経験(0)から教えられる(4)までの評価を記録している。2回以上の参加者について、PC・ネットよろず相談の活動前のスキルと直近の活動参加後のスキルを平均した結果が以下の棒グラフである。すべての項目について、顕著なスキルアップが確認できる。現地にPC教室がない末崎町において、PC・ネットよろず相談がPCやネット活用スキルの向上に依然として重要な役割を果たしている。

特に今年度はSNSとExcelの利活用度が上がった。地域のコミュニティを活性化する道具としてFacebookの活用をアピールしたこと、PC・ネットよろず相談開催までの間、自宅で学べる学習コンテンツ(動画)「初心者向け”しごと”がはかどるExcel活用術」を作成し、視聴を進めたことが奏功した。



本活動は暮らしや地域のコミュニティ形成に役立つICTの活用を身につけるだけでなく、定期的に都会からやってくるプロジェクトメンバや地域の知り合いと顔を合わせるコミュニティとしても一定の成果があった。EメールやFacebookを身につけた参加者どうしが活動の外でも交流するようになった。地域の情報発信力の強化に一定の貢献ができた。

■PCネットよろず相談を通じた地域活動への関わり事例(Aさん、Xさん)

【Aさん(末崎町・40代女性)】

第1回から参加し、今年度まで10回以上参加している。参加者の中では、もともと若い。当初は、デジタルカメラの使い方やデジタルカメラで撮った写真画像をPCに取り込み、印刷、年賀状を作成する目的で参加していた。こうした主たる課題解決に取り組み傍ら、その時々困りごとを相談していった。不要メールを削除したいという相談から、不要メールの削除方法について習得するとともに、相談を通じて、フォルダーを作ってメールを分類する方法も覚えた。このほか、ウィルスバスターの更新、不要なソフトのアンインストールなどの課題にも取り組んだ。

その後、「Wordで表を作りたい」との目的を持ち参加した。Wordでの表の作り方を指導しながら、話を聞いてみると、電話帳を作成したいとのこと。それならExcelを使えるようになったほうがよいとお勧めし、Excelを習得された。

これまでの活動を通して、より深く習熟したいの思いや、未経験のSNSやマルチメディアにも挑戦したいの意欲を持ち、回を重ねるたびにPC・ネットのスキルを上げてきた。お父様も参加しており、PC・ネットを通じた家族のコミュニケーション、参加者とのコミュニケーション、地域でのコミュニケーションに役に立っている。

	活動前	現在	備考
PC基本操作	3 (できる)	4 (教えられる)	
ワード(文書作成)	1 (初心者)	4 (教えられる)	
エクセル(表作成)	0 (未経験)	2 (独り立ち)	継続して勉強したい
パワーポイント(スライド作成)	0 (未経験)	0 (未経験)	
インターネット	2 (独り立ち)	4 (教えられる)	
SNS	0 (未経験)	1 (初心者)	挑戦していきたい
マルチメディア	0 (未経験)	2 (独り立ち)	深めていきたい

【Xさん(末崎町・70代男性)】

Oさんは、70代男性、第1回目からほぼ毎回参加されている。参加以前より、PC、ネット、メールの扱いは経験済。Word、Excel、SNSの操作を覚え、PC活用の幅を広げたいの思いを持ち参加している。PCをある程度使いこなしていることもあり、各回の参加では、主に困りごとの解決に時間を費やした。Webサイトの選択したところだけを印刷したい、PC画面をコピーしたい、ウィルスバスターを更新したい、ディスクのCとDの区別について理解したい、壁紙を変更したい、フォトギャラリーの設定方法を知りたい、電子媒体に写真データをコピーしたい、アドウェアを駆除したい等。

相談を重ねるうちに、何度かFacebookやExcelの活用をお勧めしたところ、ご自身でFacebookを使い始めた。また、Excelを使って日付の入った表や名札を作りたいとの目的で相談に参加された。

今年度最後の2月のPC・ネットよろず相談では、真先に会場入りし、「Excel!」と目的をおっしゃって、相談相手を自ら指名されていた。Excelで作成した決算書の編集がうまくいかないとのことだった。当日に、問題は解決したが、翌日もいらして、「教わったことを使って、家で編集していたが、まだうまくいかないところがある」とのことだった。相談相手とコミュニケーションを取りながら、問題解決の方法を習得した。大変喜ばれ、後日Facebookを介して、お礼のコメントをいただいた。

今年度後半以降、Facebookにより頻繁に情報発信している。地域からの情報発信するための手段を習得するのにこの活動が役に立っている。

	活動前	現在	備考
PC基本操作	3 (できる)	4 (教えられる)	
ワード(文書作成)	2 (独り立ち)	4 (教えられる)	
エクセル(表作成)	1 (初心者)	3 (できる)	Excelは簡単に役に立つことがわかった
パワーポイント(スライド作成)	2 (独り立ち)	2 (独り立ち)	
インターネット	3 (できる)	3 (できる)	
SNS	1 (初心者)	3 (できる)	地域の情報発信を行ってきたい
マルチメディア	1 (初心者)	3 (できる)	

(2) シニアの出番づくり事業

平成竹とんぼの講師育成講座の末崎地区修了者ら7名による自主活動が母体。高齢シニア男性の地域での出番づくり、地域貢献を目的に始めた活動が順調に根付いてきている。

とくに今年度の活動では、

- ①「環境に優しい、リサイクルによるものづくり」
  - ②「ものづくりを通じて天秤はかり・やじろペーなど、ものの重さやバランスのとり方を知る」
  - ③「型紙を利用した複雑な形をしたものの効率的なづくり方」
- など、新しい試みに挑戦することを目指して活動内容を構想。情報の収集と提供に努めた。

使用する材料として使用済み牛乳パックやジュースパックを用いた「エコトンボづくり」。菓子箱などのアルミ缶、ブリキ缶を用いた「とまりトンボ・パラストンボ」づくり、型紙を利用して蝶々、燕、フクロウ等、形状が複雑なものの効率的な作り方などにも挑戦した。

準備会やミーティングでは、試作づくりと情報交換が熱心行われ、メンバー間の連携や交流をより深めた。また、夏休み親子のものづくり教室、町民文化祭への出展と実演、年末恒例となつたミニ門松づくり等を通して、地域のコミュニティ再生に一定の役割を担うことができた。

なお、活動にあたっては、シニア男性のグループメンバーはものづくりには熱心だが、人集めや会場運営面には疎いため、ふれあいキッズデーの女性企画運営委員や居場所ハウスのスタッフや居場所おたすけ隊にサポートを相談したところ、地元民同士による協業、連携がスムーズに進んだ。

デジタル公民館webサイトやFBなどネットによる催事紹介や地元新聞社の記事掲載もあり、活動を聞きつけた大船渡市内や陸前高田市からの参加者も出てきており、末崎町内に留まらず、気仙地方(大船渡市、陸前高田市、住田町)のシニアの自立した活動として成長してきている。



### (3) まっさきに学ぶ！気仙に学ぶ！

今年度の研修プログラムは下記のような趣旨に基づき、テーマ、内容、講師、コーディネータなどの人選を協議して、5回実施した。

- ・プロジェクトメンバが地域に学び、学んだことを持ち返って都会で生かす
- ・地域の人には気がつかない地域の良さをプロジェクトメンバが引き出して、地域の人に気付いてもらう
- ・プロジェクトメンバと地域の人と一緒に学びの場を共有することで生まれる新しい視点を引き出す
- ・コツコツ積み重ねることによって、プロジェクトメンバと地域の方々の心の距離を少しずつ縮め、持続可能な都会と地方の関係を築く

これらを通じて被災地の地域コミュニティの再生に資する試みとして以下に取り組んだ。

「まちおもいトーク」というキャッチコピーを掲げ、毎回テーマと語り部を決めて企画を具体化した。

- ①末崎町出身の方に教育コーディネータとしてプログラムに参画してもらうこと
- ②食・自然・文化・位置などの面から末崎町の魅力について地域の人とプロジェクトメンバと一緒に学び、考える
- ③三陸沿岸各地との差別化を図る地域ブランドについて考える
- ④末崎町の中で、これまで具体的に接触がなかった細浦地区のコミュニティ再生に向けた動きと連携すること
- ⑤行政区域は異なるものの、近隣でかつ古くから交流のあった地域住民同士の交流の機会をつくること
- ⑥末崎町出身の経営者に地域経営的な視点、企業人としての立ち位置から、復興や地域コミュニティづくりについて話を聞く
- ⑦末崎町出身の開業医師に地域医療の立場から、被災後の医療活動や、これからの医療と福祉の連携について話を聞く

企画趣旨、目的に沿ってプログラムを実施した結果、下記の成果が得られた。

①については、第1回、第2回、第3回と本研修会を通じて末崎町在住の市民活動リーダー志田仁さん(大船渡市市民活動支援センター勤務)に講師、コーディネータ、司会進行などで参画していただいた。

②については、地元でNPOの準備とアイデアを構想中の志田仁さんより末崎町の魅力を活かした活動プラン案を発表いただいた。

③については、海産物を事例に基本的な地域ブランド化のポイントの解説があり、陸前高田市広田町の長洞元気村事務局長・村上誠二さんから、「地域ブランドづくりには作り手側に物語がなければならぬ。」と、長洞元気村の取り組み、被災から復興に至る長洞元気村の物語が語られた。

また、この話に触発されて、翌日午後に設定されていた長洞元気村視察研修会に、末崎町復興関係者、公民館関係者ら3名が参加。古くから嫁の行き来もあり、親類縁者が多くにもかかわらず、東日本大震災以来交流が滞っていた両地区の交流への繋がりがついた。

④については細浦地区で被災した滝田松男さん(平林仮設在住・大船渡市市議会議員)、細浦地区の状況について語っていただき、これをきっかけに9月活動の、細浦地区大津波防災訓練へのプロジェクトメンバの参加や細浦復興朝市の視察に繋がった。

⑥については、地域住民やボランティアに無料で温泉を提供してきた碓石地区の志田豊繁さん(海楽荘、大船渡温泉オーナー)、⑦については細浦地区で被災したが末崎町唯一の開業医として地元で診療所を続ける滝田有さん(滝田医院院長)に登場いただいた。お二人とも大変多忙で、土日の活動日程にはなかなか都合がつかないところ、今回、快くご協力いただいた。

身近なお二人に、改めて話を聞くことは、地元の方々にとって初めてのことであり、たいへん有意義な機会となった。当日の発言や講演の内容は参加できなかった方にも聞いていただけるようデジタル公民館のWebサイトで映像公開している。

とく地域の方からはちょっと声をかけにくい、一度はきちんと話を聞いておきたい方が、地域にはかならず何人かいるものだが、本プログラムはそこを実現することが目的の一つでもある。都会からのプロジェクトメンバが加わることで、地域の中で近視眼的になりかねない議論に新たな視点を与えることにも役立ち、とく地域の参加者だけでは遠慮があり、意見が出せない、言いにくい、よって議論が深まらないという、ありがちな弊害についてもプロジェクトメンバが触媒となることでエネルギーな「まちおもいトーク」が参加者も加わり行われた。

特に、2月に開催した第4回まちおもいトーク「医療連携と地域包括ケアのまちづくり」では、地区公民館、地域公民館が、医療連携機関と協力して、この地方創生の課題にコミットメントしていくことにもなり、気仙地方の社会教育と医療・福祉の協力の道筋を示した。よりシームレスな関係が築かれることを期待したい。

### (4) まっさきふれあい映画館

今年度の「まっさきふれあい映画館」のプログラムの具体化にあたっては、下記2点から上映可能な作品を選定して計画を進めた。

①地域における公民館の使命、役割、機能などを、公民館関係者、住民、プロジェクトメンバーが観て、改めて公民館について考える機会とすること。それには公民館や社会教育をテーマにした映画を選定し、上映会には公民館関係者に参加いただき、意見交換すること。

②漁村小集落の暮らしの復興、コミュニティの再生について考える機会として、被災前の三陸沿岸の暮らし、地域社会運営の仕組みなどを記録した映画を選定し、上映会には関係者の参加いただき、意見交換すること。

①については、東京近代美術館フィルムライブラリーが管理している1950年制作CIE映画「公民館」「スクエア・ダンスを踊ろう」「格子なき図書館」の3本を上映した。上映後、日本体育大学教授の上田幸夫さん(社会教育学)をゲストに、公民館の歴史、時代背景など、全体の状況を解説していただいた。また、参加者からは、戦後の末崎町の公民館、その前身の番屋についての説明があり、地域社会と公民館の関わりについて学んだ。本上映会は11月活動として町民文化祭に連携し、かつ公民館関係者の研修にも位置づけて11月8日(土)夜に行った。

②については、2008年～2010年にかけて3年間、南三陸町戸倉地区波伝谷集落(80世帯)の養殖漁業を生業とする暮らしや契約講など集落社会の運営の仕組み、しきたりなどを記録した「波伝谷に生きる人びと」を上映した。会場にはコミュニティ再生に取り組む方々、婦人部、食生活改善グループ、漁協婦人部、ごいし民俗誌関係者、公民館・復興まちづくり推進員・愛林公益会関係者らが参加。トークタイムでは「ごいし民俗誌」勉強会の講師をしていただいた東京文化財研究所の研究員も加わり、3.11で奪われたありのままの日常生活のありがたさを改めて共有。また、末崎町や越喜来、吉浜、綾里地域の契約講について、契約講と公民館の関係などについて話し合われた。本上映会は27年度活動報告会・運営協議会とセットで計画、委員の方々と住民の方々、活動スタッフの研修企画にも位置付けた。都会から訪問してきたプロジェクトメンバは霞が関ナレッジスクエア会場で視聴した。

これらの映画上映会とトークを通じ、「地域ならではの歴史や伝統文化」、「豊かで美しい自然環境」、「新鮮な食」、「顔が見える多世代がつながるまち」などの集落運営、そこへの公民館の関わりなどについて、参加者の関心と共通認識のベースづくりができた。

### (5) 末崎町民文化祭に参加、PRと交流

50名の地域住民が「デジタル公民館まっさき」のブースに来場し、当活動を紹介し、来場者と有益なコミュニケーションを行うことができた。展示した式年大祭のDVDと写真が予想以上に反響を呼んだ。祭囃子の音にひかれてブースにやってくると、動画に加え、壁一面に写真が展示され、テーブルには写真のファイルを置いて閲覧できるようにしていた。

自分の孫や子供、知り合いが映っている写真を発見すると、「欲しい、欲しい」と依頼が殺到した。開催2日目には、「ご自由にお持ちください」と掲示したところ、多くの来場者が関係する写真を手にして帰った。持ち帰った写真を材料に、地域や家族とコミュニケーションがとられ、深まる効果があったのではないかと。

(6)ふれあいキッズデー in 居場所ハウス

今年度の「ふれあいキッズデーin居場所ハウス」は、8月の夏休み事業と1月の冬休み事業の2回に絞り、重点的に行うこととした。昨年度、かなり力を入れて実施した12月のクリスマスキッズデーや、2月末の雛祭りキッズデーは、デジタル公民館のプログラムからは自立して、居場所ハウスの自主事業に移行した。

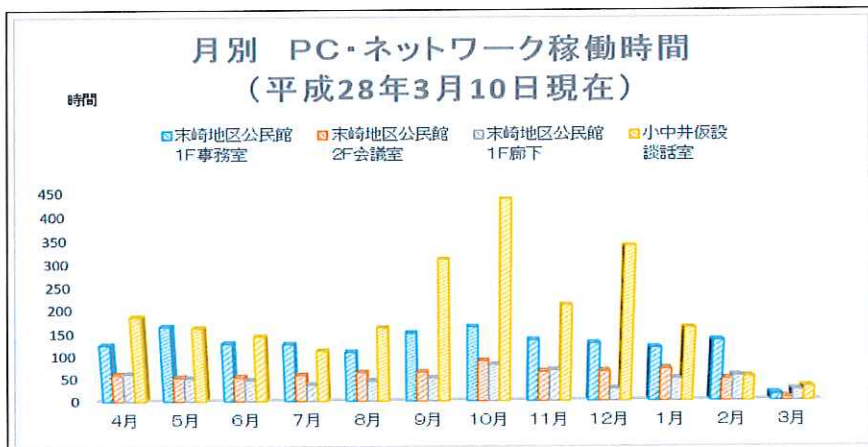
夏休みものづくり教室は学校が夏休みに入った8月9日(土)に実施したことで、多くの子どもたちや帰省中の母親も参加、久しぶりに顔を合わせ、再会を喜び合う光景も見受けられた。内容は竹を素材にした虫づくり、使用済み牛乳パックを使ったエコトンボづくり、毛糸を使ったウサギの人形づくりなど。講師、高齢の支援者、参加した親子、孫と一緒に参加の高齢者など、多世代がものづくりを一緒に体験、楽しんだ。中には夏休みの工作の宿題に取り組む子どももいて、文字通り、多世代交流施設を活用したふれあいと学びの場となった。

小河原地区冬休み子ども会事業とも連携し、1月11日(月)「郷土 末崎の歴史を語ろう」を開催した。講師の説明に小学生たちも熱心に耳を傾け、歴史好きのシニア男性からは、もっとこうした機会をつくって欲しいと要望が寄せられた。親の世代に地域の歴史をもっと知って欲しい、という趣旨もあって計画したが、子どもが参加することで、親や高齢者の参加も促進され、地域に暮らす三世代の方々の顔がわかり合う「関係づくり」にも役立った。

(7)公民館のデジタル化

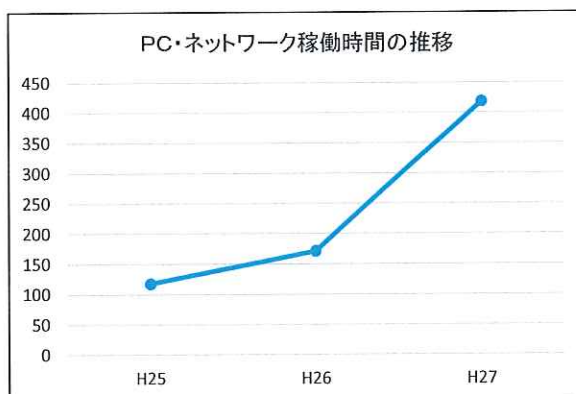
末崎地区公民館等のネット・インフラを整備した結果、右図のようにPCの利活用が図られた。

※5月、7月、9月、11月、2月のPC・よろずネット相談時のアクセスはカウントしていない



・PC・ネットワーク稼働時間(月平均時間)

	H25	H26	H27
PC稼働時間	118	172	419



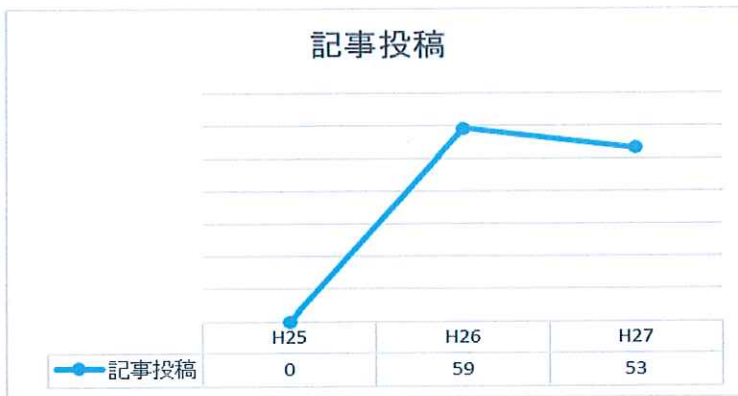
・「デジタル公民館まっさき」Webサイト記事投稿(件)

「デジタル公民館まっさき」サイトで公開されたWebコンテンツ(テキスト、写真)、映像コンテンツは次表の通りである。それぞれのコンテンツのタイトルなどについては、別紙に一覧表で示す。

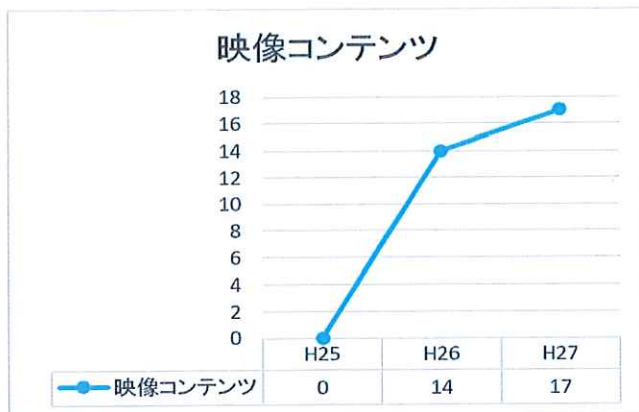
コンテンツ		投稿数	備考
テキスト・ 写真	公民館情報	12	館報まっさき
	活動報告	5	第1回～第5回各2日間のプログラム 概要と、参加者・プロジェクトメンバ のアンケート結果
	地域情報	12	
	イベント案内	7	
映像・ 音声	まちおもしろトーク	9	第1回～第4回
	まちおもしろフォト	1	
	パソコン学習	5	
	その他	2	DVD (公民館にて貸出し) 「熊野神社式年大祭」(10/31) 「郷土 末崎の歴史を学ぼう」(1/11)

また、平成25年以降の「デジタル公民館まっさき」サイトに投稿した記事の件数(映像コンテンツを含む)と、制作した映像コンテンツは下図の通りである。

・「デジタル公民館まっさき」Webサイト記事投稿(件)



・映像コンテンツ制作(本)



## 27年度 デジタル公民館サイトに投稿されたコンテンツの一覧

No	タイトル	投稿日 公開日	分類	発信者	「いいね」 回数	備考 (注)「いいね」回数は3月22日現在
1	全壊した門之浜公民館 高台中心地に再建 (3月29日実施)	4月2日	地域情報	事務局	13	
2	館報まっさき4月号	4月23日	公民館情報	職員	10	
3	碓石浜に2014年11月オープン お食事処「羅・萌衣瑠」	5月5日	地域情報	事務局	21	
4	27年度「デジタル公民館まっさき」 第1回5月30日～31日活動の案内	5月11日	イベント案内	事務局	1	
5	「デジタル公民館」5月活動の詳細案内	5月22日	イベント案内	事務局	18	
6	館報まっさき5月号	5月26日	公民館情報	職員	15	
7	居場所ハウス2周年感謝祭開催案内	6月6日	地域情報	事務局	16	
8	館報まっさき6月号	6月22日	公民館情報	職員	2	
9	H27.5「デジタル公民館まっさき」活動報告	6月29日	活動報告	事務局	1	
10	館報まっさき7月号	7月22日	公民館情報	職員	8	
11	碓石海岸穴通船	7月23日	地域情報	事務局	5	
12	H27.7「デジタル公民館まっさき」活動報告	7月28日	活動報告	事務局	6	
13	「細浦復興朝市」ホームページ開設	8月7日	地域情報	事務局	2	
14	まっさきに学ぶ！「第1回まちおもしろトーク」 (5月30日実施)	8月11日	まちおもしろ トーク	事務局	1	映像コンテンツ 3本 ・志田 仁さん 「大船渡市市民活動支援センターの活動と “祖学”として準備中の七福プロジェクト」 (16分00秒) ・滝田松男さん 「私が思う細浦地区のいま、これから まっさきの復興の課題」 (27分30秒) ・活動スタッフのコメントとまとめ (約16分)
15	まっさきに学ぶ！ 第2回まちおもしろトーク (7月11日実施)	8月11日	まちおもしろ トーク	事務局	6	映像コンテンツ 2本 ・志田 仁さん 「私の考える地域ブランド」(8分13秒) ・村上誠二さん 「高齢ビジネス長洞チャレンジ」(42分31秒)
16	夏休みものづくり教室(8月9日実施)	8月17日	地域情報	地域レポータ	21	
17	9月活動スタッフ募集案内	8月17日	イベント案内	事務局	19	
18	館報まっさき8月号	8月21日	公民館情報	職員	2	
19	東大農場ハウス見本園を視察(7月22日実施)	8月21日	地域情報	事務局	10	
20	館報まっさき9月号	9月24日	公民館情報	職員	3	
21	初心者向け！ “しごと”がはかどるExcel活用術 1, 2	9月24日	パソコン学習	事務局	21	パソコン学習コンテンツ 2本 ・すごいぞExcel(7分57秒) ・名簿をつってみよう(16分48秒)
22	H27.9「デジタル公民館まっさき」活動報告	10月15日	活動報告	事務局	7	
23	11月7日～8日活動の案内	10月17日	イベント案内	事務局	1	
24	第3回まちおもしろトーク(9月26日実施)	10月20日	まちおもしろ トーク	事務局	6	映像コンテンツ 2本 ・志田豊繁さん 「大船渡温泉は三陸復興に役立つ 1000年続く事業」(46分54秒) ・質疑応答編 (29分12秒)
25	館報まっさき10月号	10月21日	公民館情報	職員	1	
26	初心者向け！ “しごと”がはかどるExcel活用術 3	11月5日	パソコン学習	事務局	7	パソコン学習コンテンツ 1本 ・名簿を編集してみよう(9分55秒)
27	館報まっさき11月号	11月28日	公民館情報	職員	1	
28	H27.11「デジタル公民館まっさき」活動報告	11月28日	活動報告	事務局	1	
29	みんなのミニ門松づくりのご案内	12月1日	イベント案内	事務局	1	
30	平組「はしご虎舞 復活！」(10月31日実施)	12月8日	地域情報	事務局	14	
31	神坂熊野神社式年大祭宵宮 気仙山法院神楽奉納(10月30日実施)	12月8日	地域情報	地域レポータ	1	
32	みんなのミニ門松づくり 活動報告 (12月13日実施)	12月17日	地域情報	事務局	5	
33	館報まっさき12月号	12月22日	公民館情報	職員	6	

34	小細浦地域高齢者ふれあい活動「お茶っこの会」(1月16日実施)	1月19日	地域情報	地域レポート	80	
35	郷土 末崎の歴史を学ぼう開催報告(1月11日実施)	1月20日	地域情報	地域レポート	9	
36	館報まっさき1月号	1月20日	公民館情報	職員	4	
37	まちおもしろフォト2015	1月21日	まちおもしろフォト	事務局	9	映像コンテンツ 1本 ・住民参加 笑顔とメッセージのスライドショー(3分48秒)
38	2月13日-14日の活動ご案内	1月28日	イベント案内	事務局	2	
39	初心者向け！ "しごと"がはかどるExcel活用術 4, 5	2月12日	パソコン学習	事務局	6	パソコン学習コンテンツ 2本 ・見直しを作成してみよう(10分55秒) ・グラフを作成してみよう(9分25秒)
40	館報まっさき2月号	2月22日	公民館情報	職員	22	
41	第4回まちおもしろトーク	2月25日	まちおもしろトーク	事務局	4	映像コンテンツ 2本 ・滝田有さん 「住民参加で進めよう！医療連携と地域包括ケアのまちづくり」(58分50秒) ・安部白道さん 「未来かほえネット プロモーション」
42	H28.2「デジタル公民館まっさき」活動報告	2月29日	活動報告	事務局	3	
43	「デジタル公民館まっさき」 & [復興支援IIボランティア]活動報告会 「波伝谷に生きる人びと」映画上映会のご案内	3月7日	イベント案内	事務局	13	
44	館報まっさき3月号	3月22日	公民館情報	職員	1	
45	3月26日「H27年度活動報告会」と「まっさきふれあい映画館」の報告	3月30日	活動報告	事務局	0	

## 27年度「デジタル公民館まっさき」公式サイトで公開した映像コンテンツの概要

まっさきに学ぶ！ 気仙に学ぶ！ シリーズ

第1回 まちおもしろトーク

実施日：5月30日(土)／公開日 8月11日(火)

テーマ：まっさきのいま、これから、課題と魅力

趣旨・概要：

第1回 まちおもしろトークには、語り部に志田仁さんと滝田松男さんのまっさき住民のお二人に登場いただき末崎町の復興のまちづくりに向けた思いや現状ついて、それぞれ熱く語っていただきました。また、現地の方のお話を受けてよそ者の視点から「まっさき」「ごいし」という地域についての印象、特長、いいところなどについて活動スタッフからも率直な意見を述べていただきましたのでその一部を公開。

タイトル1「大船渡市市民活動支援センターの活動と“祖学”として準備中の七福プロジェクト」

講師：志田 仁 氏(大船渡市市民活動支援センター事務局・碓石地区在住)

時間：16分00秒

タイトル2「私が思う細浦地区のいま、これから まっさき復興の課題」

講師：滝田 松男 氏(市議会議員・平林仮設在住)

時間：27分30秒

タイトル3「活動スタッフのコメント」

・「窓を開けると波の音が聞こえ、月もきれい」(3分30秒)

葛西 章広 氏(千葉県船橋市住民)

・「“コマーシャル化”されていないところが魅力」(3分34秒)

古賀 久恵 氏(陸前高田市・宮城県山元町在住 コーディネータ)

・「一言でいうとたおやかな地域。“ケセン”という視点がいいのでは」(6分5秒)

久保田 了司 氏(霞が関ナレッジスクエア代表)

・「いったん出て行った地元の人も戻って来なくなるまちにしたい」(2分47秒)

志田 仁 氏(大船渡市市民活動支援センター事務局・碓石地区在住)

第2回まちおもしろトーク

実施日：7月11日(土)／公開日：8月11日(火)

テーマ：地域ブランド

趣旨・概要：

第2回 まちおもしろトークは、持続可能な地域づくりの手段の一つとして注目されている「地域ブランド」「地域ブランドづくり」をテーマに実施。志田講師には大船渡の「さんま」と気仙沼の「フカヒレ」を事例に地域ブランドの観点から比較検討し、地域ブランドということについての要点、基本をお話しいただきました。村上講師には、おばあちゃんたち「なでしこ会」による生活優先の“好齡”ビジネスについて、ハーバードビジネススクール視察団も驚いたボランティアしてもらった代償にお金をいただく、という発想の転換“山賊”ビジネスについて、小学生や不登校だった高校生たちとの交流などを事例に、元気村ブランドのベースにある“物語”についてお話しいただいた。

タイトル1「私が考える地域ブランド」

講師：志田 仁 氏(碓石地区在住)

時間：8分13秒

①「好齢ビジネス長洞チャレンジ」  
講師:村上 誠二 氏(長洞元気村事務局長)  
時間 42分31秒

.....  
第3回 まちおもいトーク

実施日:9月26日(土) 公開日 10月20日(火)

テーマ:企業家が思うまちづくり

趣旨・概要:

第3回まちおもいトークは、地元で海産物の養殖業と温泉・宿泊施設「海楽荘」「大船渡温泉」を経営する志田豊繁オーナーにご登場いただき、事業家・企業家の立場から地域貢献について思うところ率直に語っていただきました。

タイトル1「大船渡温泉は三陸復興に役立つ1000年続く事業」

講師:志田 豊繁 氏(基石温泉(株)代表取締役・(株)海楽荘代表取締役)

時間:46分54秒

タイトル2「質疑応答」

時間:29分15秒

.....  
第4回 まちおもいトーク

実施日:2018年2月13日

テーマ:医療現場からおもうまちづくり

趣旨・概要:

第4回まちおもいトークは、細浦地区で被災された滝田医院院長の滝田 有(たもつ)さんにご協力いただき、ご自身の被災体験や診療活動の再開、55年の半生を語っていただくとともに、松嶋神社をお御祭りしてきた14代目金山澤家について、自身が代表理事をつとめる一般社団法人未来かなえ機構が進める医療連携、ついてなど、今、思うところ率直に語っていただきました。

タイトル1「住民参加で進めよう！医療連携と地域包括ケアのまちづくり」

時間:58分50秒

.....  
「まちおもいフォト 2015」

実施日:11月7日(土)—8日(日)町民文化祭/12月13日(日) ミニ門松づくり

公開日:1月21日(木)

時間:3分48秒

趣旨・概要:

末崎町民文化祭(H27年11月7日～8日)の来館者や出演者。並びに12月13日の「みんなのミニ門松づくり」参加者30人・チームに「笑顔とメッセージ」のご協力をいただき、撮影。前年に続いて「まちおもいフォト2015」(スライドショー)としてまとめました。

## 初心者向け！ “しごと”がはかどるExcel(エクセル)活用術

「PCネットよろず相談」は、2カ月に1度、年間5回実施し、相談事を持ち込んだ地域の参加者に対しては、問題を解決し、継続的な活動を通してITスキルの向上を図ることができた。一方、この活動にはいくつかの課題があった。主な課題の一つは、相談に応じてから次の機会まで最短でも2カ月あることである。困った時に問題解決できる人が周囲にいないため、せっかく覚えたことも活かさない。また、仕事や子育てに忙しいと、「PCネットよろず相談」自体に参加できない。

上記の課題を解決するため、「デジタル公民館まっさき」の学習コンテンツとして「初心者向け仕事はかどるExcel活用術」の動画を制作した。この動画はデジタル公民館のほか、KK2の<http://www.kk2.ne.jp/kk2/biz02/excel.html>/サイトで無料公開され、いつでも、どこでも、誰でも利用できる。

この学習動画は以下の基本方針に基づき制作した。

② 単なる機能説明ではなく、PCネットよろず相談のように、いくつかの目的を設定し、その問題を解決するストーリーにする。

③ 「Excelの活用法」、「名簿を作成」、「名簿を編集」、「見積書の作成」、「グラフの作成」の5本を製作する。

④ 先生と生徒役のかけあいにより、親しみやすく、わかりやすい内容にする。

専門用語等、拒絶反応を起こしやすいことばの使用をできるだけ避けた。同じ目的を達成できる方法はいくつかあるが、できるだけ単純な方法を採用し、解説した。先生と生徒が良い雰囲気でものを達成するような演出を心がけた。

各シリーズの後半は、生徒の出番を増やし、生徒が自ら問題解決できる。基本さえ習得すれば、簡単なのだという印象を与えるような構成を心がけた。

⑤ 1本の放送時間をできるだけ短くする。手軽に視聴できるよう10分以内を目標に、できるだけコンパクトな内容にした。

公開直後より、閲覧者からは、『Excelは、必要に迫られ使っていますが、自己流なので基本を学ぶよい機会と思い視聴しました。「しごと」がはかどるExcel活用術』とのタイトルも印象的ですし、8分弱の短さも、気軽に見られる長さで、編集も良く、学習するのが楽しみです』等、好意的な評価を得ている。

## 【現状の課題】

### (1)ICT環境の未整備

末崎地区公民館(ふるさとセンター)は大船渡市末崎町の中心的コミュニティスペースであるが、施設運営管理面の予算措置、並びに常勤の専門人材の配置はなく、インターネットや住民利用パソコン環境も整備されていない。公民館としての情報発信も月一回の紙媒体(館報まっさき)のみで、住民へのICT活用支援も困難である。国・都道府県・市町村の各種行政情報がインターネット公開されている中で、地域の中核施設が行政施策などを常時ウォッチできないため、住民自治活動やコミュニティ活動を実施する上でも、大きな課題となっていた。また、地域がさまざまな外部機関、他地域からの支援を受けて、復興から地方創生に取り組む上でも大きな課題と考えられる。事務室に職員用のパソコン端末が配置された他、この状況は、昨年度から概ね変わらない。

大船渡市には防災・市民メディアという一般通信回線がダウンした場合に起動する「市内無線ネットワークサービス」が整備され、末崎地区公民館も地域の拠点として、そのアクセス環境が導入されている。しかし、これを利用できるのは地区防災本部のスタッフ(末崎町在住の行政職員)で、それも非常時のみ利用できるシステムになっている。公民館職員や住民が平常時にインターネットにアクセスできるシステムにはなっていない。これでは都会と地方の格差や溝は埋まらないのではなかろうか。ローカルの良さを活かして、グローバルの世界に向き合わなければいけない時代、住民一人一人が考える力をつけなければいけない時代に、これで本当によいのだろうか。

### (2)地方創生に向けた末崎町の体制

大船渡市末崎町が復興から地方創生に取り組む体制としては、末崎地区公民館長をハブとする「17集落公民館長のネットワーク」、首長部局から地区公民館嘱託3名が任命された「まちづくり推進員」、末崎町全体の振興に取り組む「末崎町振興会」がある。この三つの体制ではメンバーが重複し役割分担が明確ではなく、住民から見てもわかりづらい、オールまっさきとしての地方創生(まち・ひと・しごと創生)に向けた体制と人材に大きな課題がある。この点も昨年度から変わりはなく、課題解決に向けた糸口も見えていない。

これまでの活動を踏まえ、住民個人の課題、地区の課題などについて、地域の中で課題解決に適する人材を見出しマッチングしていく仕組みづくりが求められる。こうした取り組みを通して、人の「創生」、しごとの「創生」、まちの「創生」につなげ、その結果が地方創生に行きつくのではないのか。

### (3)行政と住民の自治意識にギャップがある

H28年2月現在、末崎町には約1,500世帯、4,331人が居住。0歳～19歳587名(13.6%)、20歳～64歳2,118名(48.9%)、65歳以上の高齢者は1,626名(37.5%)。地域の共通課題として、声かけ・見守り活動等による孤独死防止のコミュニティ活動が求められていますが、末崎町内の具体的な独居老人世帯数は行政も住民側も把握できていません。26年4月に調べた時は行政より186世帯という回答を得ていただきましたが、今回は不明でした。仮設住宅から高台集団移転住宅へ、災害公営住宅への移転や、引き続き仮設住宅に留まる人など、ここにきて被災者の経済的格差が生活の復興や心の復興に立ちはだかっており、支援する人のケアも含めてひと筋縄ではいかないコミュニティの重い課題になっている。これらに行政と住民が自助、共助、公助、行政自治と住民自治の連携で乗り越えていかなければならないのだが、集落毎に格差がある。また集落単位での住民の自治意識に対して、末崎町への帰属意識は低い。行政は主として町単位でのコミュニティを管理し、住民は主として集落単位を意識しており、ここにギャップが生じおり、ここをつなぐ機能が地区公民館一稚気公民館を中心とした人と情報のネットワークとなる。

### (4)住民個々のICT活用支援を生かす地域での取り組みが必要

住民の方々はそれぞれの生活の中でパソコンの利用やインターネットの利用に取り組んではいるものの、困りごとは日々発生する。しかし末崎地域には困った時に助けてくれる団体等はない。ビジネスにおける常時利用とは異なり、生活の中で利用する場合、利用頻度はビジネスのそれと比べ、低い。また、次に利用するまでに時間があく。状況によっては、電源を入ると、バージョンアップが始まり、数時間動作しないこともある。会社組織であれば、個人で困っても周囲にスキルの高い人材がいて対応することが可能であるが、個人では難しい。

今年度のPC・よろずネット相談でも、Windows10にバージョンアップしようとしたがうまくいかない。バージョンアップしたら、ソフトが使えなくなった等の相談が複数寄せられた。ICTスキルの高いプロジェクトメンバが対応したので問題解決できたが、生活の中で利用しているPCの問題を個人で解決するのはたいへん難しい。

年に数回のPC・よろずネット相談は、こうした問題解決のために重要な役割を担った。一方で、困り事は日々発生する。次の相談会まで1カ月ないし、2カ月も待たなければならない。この間をいかに埋めるかが、昨年度からの課題であった。

この課題を解決する方法はいくつか考えられる。

第一に、一つの試みとして行った学習動画コンテンツの制作があげられる。「初心者向け”しごと”がはかどるExcel活用術」をデジタル公民館で公開した。このコンテンツはExcelの機能や操作を紹介するものではない。これまでのPC・よろずネット相談の経験から、各回に課題を設定して、課題解決をはかるシナリオにした。「名簿を作る」「名簿を編集する」「見積書を作る」「グラフを描く」、これらの課題をできるだけ簡単な方法(操作)で解決できるよう企画した。公開した学習コンテンツについては、各回のPC・ネットよろず相談においても学習コンテンツの利用を進めた。PC・ネットよろず相談で、頻度の高い困りごとについては、この方法により「困り事Q&A」の動画学習コンテンツを制作、提供できれば、次のよろず相談までの時間を埋めることができるかもしれない。

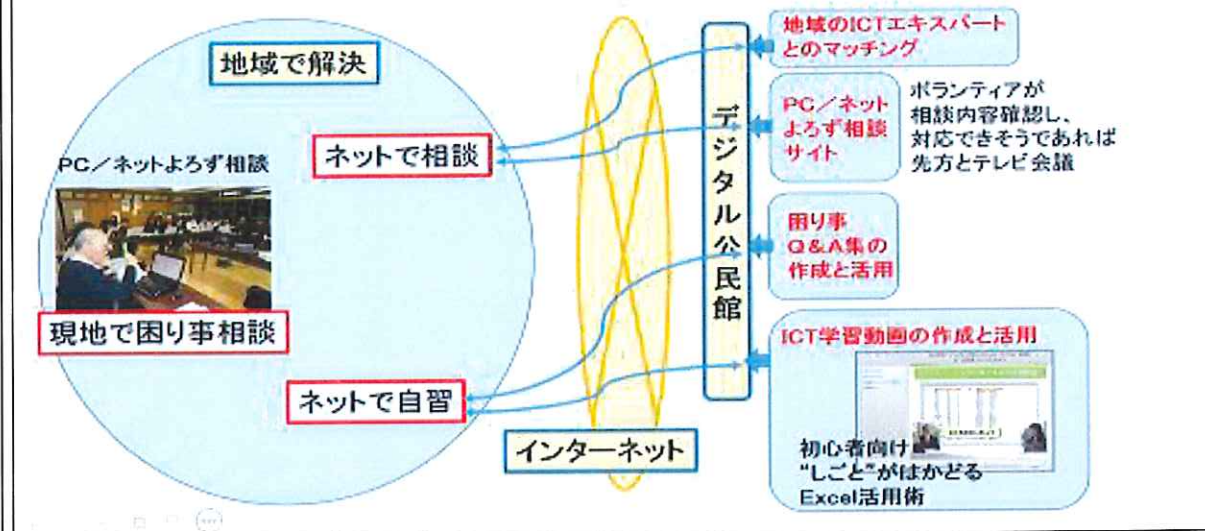
第二に、地域の中にもICTスキルの高い人は少なからずいるはずである。PC・ネットに関して困り事のある人と、地域において高いICTスキルを持つ人とをデジタル公民館の中で、マッチングするしくみを作ることは有益ではないか。

第三に、ICT社会、ネット社会を生かした方法がある。PC・ネットよろず相談は、条件が整えば現地に行かなくともできる。例えば、次のようにする。ネット上にPC・ネットよろず相談のサイトを設ける。このサイトには過去のQ&A集も参考までに載せておく。このサイトを通じて、困りごとのある人は、問い合わせを行う。複数のボランティアがこのサイトを見るようにしむける。ボランティアは、困りごとの内容を確認し、対応できそうな内容であれば、先方と連絡を取り、対応日を調整する。そして、インターネット電話サービスskypeなどを利用し、お困りごとの解決を図る。

第四に、岩手県、宮城県の大学との連携を行うことで、持続可能なICTデバイドの解消を実現したい。

ICT活用支援を生かす地域での取り組みも大切である。ボランティアまかせでは、なかなか地域で中核になる人材が育たない。PC・ネットよろず相談の活動を通じて、地域で情報を発信する個人や、教える側に入れるほどICTに習熟した個人はでてきたが、まだ地域で対応のバワーを生み出すに至っていない。例えば、地域情報の発信者グループ、地域のICTインストラクターグループなどを形成していくことが重要である。また、このことは被災地のソーシャルビジネスづくり、地域の仕事づくりといった観点からも担い手となる人材育成が課題であることを示している。また、中学生や高校生の地域貢献とも考えられる。戦後復興期の公民館がミシン縫製や三輪自動車運転など生活を良くしていくうえで必要な新しい技能習得の場だったことを改めて噛みしめたい。

## ICT活用支援を活かす複線型取り組み(案)

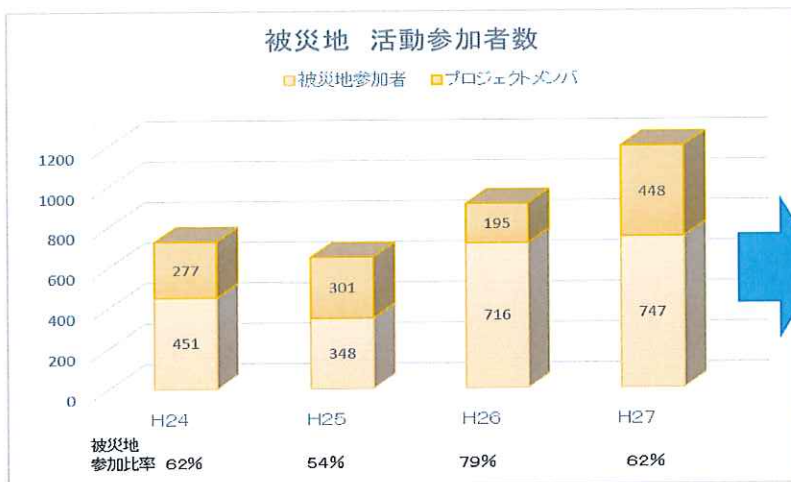


### 【まとめ】

PC・ネットよろず相談や「まちおもいトーク」をはじめとした研修事業、地域活動、情報発信などにより、学びを通じた地域のコミュニティ再生に一定の役割を果たすことができた。都会から駆けつけたプロジェクトメンバが取組んだ、ICT弱者⇨高齢者の支援では、集落の高齢者達がExcelを使って「しごと力」を向上させ、メール・Webサイト・ブログで活発に情報共有し、facebookで「よそ者」と繋がり、人と人の絆と地域の再生を後押しする得難い体験となった。

一方で、課題も多い。私たちがICT弱者⇨高齢者の支援に取り組めた地域は限られている。自らかかわりを持とうとする住民も限られる。自立してコミュニティの再生に取り組む地域も限られる。「自立」しない個人・「自立」しない集落・「自立」できない地域を置き去りにすることなく、これまでの経験を踏まえ、今後も身の丈に合った活動を粛々と継続していきたい。

現代はICT社会だと言われて久しい。ICTを活かし「何時でも何処でも誰でも学ぶ」ことが求められてもいる。しかし、ICTは決して「人にやさしい」ツールではない。とりわけ高齢者等「ICT弱者」が置き去りにされかねない。私たちの取り組みは、これまででも、そしてこれからも、ICT利活用に関する支援を行う上で、「ICT弱者」を決して切り捨てず、たとえ高齢者といえども、絶えず自己を磨き、新しいことを習得する力を身につけられるよう、支援していくことである。そして、ICTを活かした「人にやさしい」コミュニティの実現をめざす。



持続可能な学びの企画・運営スキームづくり  
地域教育コーディネータづくり・情報発信力の強化  
被災地主体事業へ



【おわりに】

「デジタル公民館まっさき」の活動は、平成24年度前期の8月下旬まで自主事業、後期は委託事業、平成25年度は全期自主事業、平成26年度は全期委託事業、平成27年度は4月末より委託事業として実施してきた。これまでの活動を通して、定期的に都会から訪問するICT活用の専門スタッフと住民参加者に出会いと交流、学び合いの場を提供してきた。

文科省・復興庁「学びを通じた被災地のコミュニティ再生支援事業」としては、被災地の公民館と都会の公民館（自称民設民営の公民館）が協力して社会教育分野の視点から取り組んだこと、コンソーシアム方式で実施したことなど、かなり特異な活動だったと認識している。

コンソーシアムである大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会は、大船渡市教育委員会、末崎地区公民館、一般財団法人高度映像情報センター・霞が関ナレッジスクエアの3団体を中心に、復興のまちづくり協議会、地域公民館、コミュニティカフェなどの地域自治やコミュニティ活動にかかわる地域リーダー、教育コーディネータなどで構成した。末崎地区公民館は活動場所の提供、活動の告知、関係者の連絡調整を担当。霞が関ナレッジスクエアは、「デジタル公民館まっさき」活動に必要な通信インフラ・パソコンの整備、プログラムの企画・開発・調整と専門活動スタッフチームの編成、インターネットを通じた情報発信や地域の方々との交流を行い、定期的に現地活動を実施してきた。その結果、当初計画した活動はおおむね実施でき、事業の目的と成果は達成することができたが、根本的な課題は残されたままである。

被災地を取り巻く状況は依然として厳しいものがあり、被災前からの課題である少子高齢化、若者の流出、人口の都市部への一極集中と地方の衰退は、震災によりますます進んでいる。このことによって、市町などの行政機能、公民館の社会教育機能、住民自治との協働機能などは、置き去りにされたままではないか。公民館についてみると、活動前からの課題であった住民向けインターネット環境の整備や、専門職員の配置には、あいかわらず手が回らない状況が続いている。まっさき地域住民のICTディバイドは活動により多少なりとも解消されたものの、地域としての課題は残されたままである。

こうした状況ゆえ、地元からは活動の継続を強く要望されている。そのため、ももとの事業発案者でありコンソーシアムの事務局・会計を担当してきた一般財団法人高度映像情報センターは、財団の28年度事業計画として、引き続き末崎地区公民館の協力を得て、デジタル公民館活動を継続することにした。

本活動のコンソーシアムを構成した主たる3団体には、コンソーシアム解散後も次のことが求められている。大船渡市教育委員会は市の教育政策推進の立場から、本事業を評価し、手が回っていない公民館や社会教育の施策に資すること。霞が関ナレッジスクエアは、初心である都会と地方の公民館の交流、都会の人と地方の人が共に学び合う場づくりなどを実施すること。また、ICTを活用することで得られる楽しさ、人と人とのつながり、仕事の効率などを広める観点から、民間団体の立場で、持続可能な地域づくりに取り組むこと。そして、末崎地区公民館は、歴史文化的な使命を踏まえて、引き続き末崎町の住民、末崎町出身者のシンボルとして、対外的な交流の受け皿、連携協力機能を維持し、住民自治の観点から地域住民との協働を構築していくこと。一度都会に出た若者たちが“あれ・いいまちじゃないか”と帰ってくる地域にするようリーダーシップが求められている。